

1 自己評価

今年度の重点目標
1 確かな学力を身につけた情操豊かな生徒の育成
2 進路実現を目指したキャリア教育の充実
3 生徒の学びを支える、安全で魅力ある教育環境づくりの推進

重点目標の具体的努力点
1 ① 生徒の自ら学ぶ態度の育成と学力の伸長を図るために、主体的・対話的で深い学びとなるよう、電子黒板・タブレット端末を活用するなど、授業や指導方法の工夫改善に努める ② 特別活動等を通して生徒の気力、体力を充実させるとともに、挨拶を励行させるなど品位ある生活態度を涵養し、知・徳・体の調和のとれた成長を促す ③ 探究的な学習活動を推進することにより、SDGs等の今日的でグローバルな課題に主体的に向き合い、その解決に向けて具体的に行動できる力を育む
2 ① 自己の在り方生き方について考えさせ、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育成する 進路選択については、個に応じた指導を充実させ、なりたい職業や行きたい大学等へチャレンジする精神を育成する
3 ① 安全・安心な学校づくりを目指し、生徒の状況の把握と感染症予防、共学化に伴い充実した施設・設備等の有効利用及び適正な維持管理、校舎内外の美化、事故防止等に努める ② 校務支援システム等の活用により、働き方改革を推進する ③ 学校Webサイトを充実させることで、本校の魅力を外部に発信する

(1)各部、学年、教科による取り組み

重点目標(具体的努力点)について、特に関連・取り組んだ項目についての自己評価。

評価	A:達成できた	B:概ね達成できた	C:あまり達成できなかった	D:達成できなかった
----	---------	-----------	---------------	------------

部学年教科	各部学年教科の努力目標↓	重点目標の具体的努力点→	重点目標1			重点目標2			重点目標3			取り組み・達成状況等
			①	②	③	①	②	③	①	②	③	
部	学習	○能動的に学ぶことができる環境を整え、生徒の潜在能力をひきだす。 ○将来を見据えた学習指導の在り方を整備していく。	B	B	B	B					B	・それぞれの生徒が抱える様々な問題を成長の糧とできるよう導き、学習への意欲を膨らませることができるような取り組みを、今後さらに検討していきたい。
	生徒	○節度ある生活態度の育成。 ○交通事故防止(特に自転車事故防止)。 ○教育相談における校内体制の充実。	B	B	B	B	B	B				・生徒の特性や課題、抱える問題等が多様化する現在、最新の情報入手や、研修等の受講機会を積極的に設けていく。
	特活	○学校行事の適切な運営。 ○部活動の奨励と充実、及び、部室・活動施設整備の管理の徹底。	B	B	B						B	・学校行事については、生徒が主体的に生き生きと取り組む姿を見ることができたが、次年度への課題も多く、引き続き安心・安全な実施を最優先して解決策を考えていきたい。 ・部室や活動施設の利用と管理については、現状をよく分析して、必要な調整や指導の徹底を検討したい。
	健康	○生涯を通じて健康な生活を送るための知識の習得と実践するスキルを養う。 ○積極的に運動を実践し、健康な生活を送る態度を育成する。 ○災害や感染症に対する意識を高め、安心・安全な生活を送る態度を育成する。 ○清掃への取り組みの徹底。 ○美化意識の高揚。	B	B	B	B					B	・清掃の時間を昼休みに変更したことで、時間に余裕を持って清掃に取り組む様子が見られた。また、清掃時の換気が効果的であり、例年に比べて感染症が激減した。本校の伝統であるエプロンの着用についても徹底させた。
	進路	○生徒が望む進路を実現できるように、各学年の段階にあった適切な指導助言を行う。 ○初めての宇都宮中央高校3年次では、大学進学において宇都宮中央女子高校を質・量とも上回る進路結果を残す。	B				B	B	B	B	B	・東北大AO2期にチャレンジする層が出てきた。また、新しい入試形態である東洋大の推薦に挑戦した者もいた。生徒の意識を前向きにさせ、多様な入試形態に対応できる生徒の育成に努めたい。また、年内入試に対応し、合格させられる指導体制を構築していきたい。
	教務	○教育課程の適正実施、及び、授業時数の確保。 ○校務運営の協同化及び効率化の推進。 ○情報の管理・活用の強化。	B	B	B	B	B	B	B	B	B	・教育課程については、何度も検討を重ねたが、現状に合わせた改善ができた。 ・校務の効率化については、必ずしも情報化＝効率化につながっていない部分もあり、まだまだ旧態依然のやり方から脱却できていない部分も多い。
	渉外	○新校のスタートにふさわしい学習環境の充実に寄与する。 ○PTA会員が取り組みやすく、安全で無理のないPTA活動に努める。 ○会計関連業務の円滑で確実な実施に努める。			B	B				B	B	・保護者がPTA活動や学校行事に参加することで、生徒たちが安心・安全に学習に取り組めるような環境の充実に寄与できた。
学年	1年次	○好ましい生活習慣の確立。 ○学習習慣の確立。 ○進路意識の喚起。	B	B	B	B	B	B	B	B	B	・学習習慣に関して、スケジュール帳を各担任で確認するなど重点的に指導し、確立できた生徒もいる。ただ、確立できた生徒の中でも下位層に低迷している生徒もいるので、個別の声掛け、指導等も今後やっていきたい。
	2年次	○好ましい生活習慣の定着。 ○学習習慣の定着。 ○進路意識の涵養。	B	B	A	B	B	B	B	B	B	・総合的な探究の時間については、限られた時間の中で効果的な指導ができるように、全職員で連携し計画的に指導にあたることができた。 ・2年生になり、生徒による学習への取り組みの差が大きくなってきたので、中下位層の生徒の学習意欲の喚起が課題である。
	3学年	○自らを律する力の涵養。 ○進路実現に向けた学習指導の充実。 ○進路実現に向けた進路指導の充実。	B	A	B	B	B	B	B	B	B	・面談を重ね、少しずつ進路を明確にし、実現に向けて行動できるようになってきた。軽微なケガや、交通事故が目立った。
教科	国語	○学習の習慣化を促し、主体的に学ぶ態度を育み、学力の向上を図る。 ○思考力・判断力・表現力を向上させる。	B		B	A	B				B	・教材を通して、生徒が自己を見つめ生き方を考えたり、探究学習の基礎となる考え方を得たりすることができた。 ・百問繚乱の導入により試験の採点処理速度が大きく向上した。
	地歴公民	○多様な手法を用いた思考力・表現力・判断力を育む授業の展開に努める。 ○基礎学力向上につとめ、発展へつなげる学習を促す。	B		B	B	B				A	・各科目担当者間で教材等を共有し、充実した授業展開を図ることができた。 ・百問繚乱の導入により試験の採点処理速度が大きく向上し、事後の生徒への指導に生かすことができた。
	数学	○基礎学力の定着を図る。 ○進路実現のための学力向上に努める。	A		B	B	B				B	・各科目担当間で情報をできる限り共有し、指導内容について検討したことにより、指導力の向上を図ることができた。 ・百問繚乱の導入により試験の採点処理速度が大きく向上した。その分試験問題の検討や試験後の生徒の指導等に時間を割くことができた。

部学年教科	各部学年教科の努力目標↓	重点目標の具体的な努力点→	重点目標1			重点目標2			重点目標3			取り組み・達成状況等
			①	②	③	①	②	③	①	②	③	
教科	理科	○基礎学力の向上を図り、科学的思考力を育成する。 ○大学など他機関との連携を積極的に図り、生徒の自然科学に対する興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める。	A	B	B	B	B	B	B			・各科目担当間で情報を共有し、指導内容や方法、ICT機器の活用法について協議を重ね、互いの指導力の向上を図ることができた。 ・百問繚乱の導入により試験の採点処理速度が大きく向上した。その分、試験問題の検討や、試験後の生徒の指導等に時間を割くことができた。
	保健体育	○生涯にわたり豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につけさせる。 ○健康・安全についての理解を深め、日常生活で実践できる知識と技能を習得する。	A	B	B	B	B	B	B	B		・保健においては生徒に単元のまとめについて発表させる時間を設けたり、ICT機器を用いて主体的・対話的実践できた。 ・体育においては、昨年度より選択種目を増やしてさまざまなスポーツを経験させることができた。その中から見る・支える・知るといった観点で、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できる資質や能力を身につけさせる工夫を凝らしたい。
	芸術	○基礎的な知識、技術・技能の定着を図る。 ○幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質や能力を育成する。	B	B	B	B	A		B			・音美書の各科目担当間で授業での実践内容、ICT機器の活用など、研究授業などを通して多くの情報を共有し、指導内容について検討、向上させることができた。 ・生徒の進路希望や興味関心に合わせ、授業内容を精選し進路に合わせた個別指導を充実させることができた。
	英語	○授業を中心とした指導展開に努め、基礎学力の定着を図る。 ○個に対応した指導の充実。	A		B	B	B		B			・年次、科目担当者間で、授業の進捗、定期試験等の作問、課題、評価等について検討し、情報を共有し、生徒へ公平に還元することができた。 ・教科書以外に速読・リスニング演習の定期的な実施や、ALTの活用により、4技能のバランスを図りながら指導ができた。 ・習熟度、少人数クラスの授業や個別の添削指導を実施し、個に応じた指導を充実させた。
	家庭	○普通科生徒に対しては、社会の諸課題を捉えより豊かな家庭生活や地域生活を創造する能力と実践的態度・技術を養う。 ○総合家庭科の生徒に対しては、家庭に関する専門的な知識と技術を体験的総合的に習得させ、それらを生かして社会の諸課題を改善する力を養う。	B	B	B	A	B	B		B		・各科目で様々な体験的な学習を通して実施し、技術向上を図ることができた。 ・産業教育フェア栃木大会の参加や家庭クラブの研究発表大会での発表などの活動を通して、生徒の自ら学ぶ態度を育成することができた。 ・被服室や調理室などで老朽化している備品や設備があり、事故防止や維持管理に細心の注意が必要だった。
	情報	○授業に情報活用能力を養う。 ○情報に関する科学的な見方、考え方及び問題の発見、解決に活用できる知識技能を養う。	A	B	B	B	B		B	B		・インターネットで情報を収集する際に、逆にこちらの情報が漏洩する可能性と仕組みを理解させ、安全に情報収集する力を向上させた。 ・インターネットへ接続する仕組みとセキュリティ対策を理解し、情報のやりとりで欠かせない暗号方式を理解させ、安全な情報通信のやりとりの力を向上させた。 ・AIを活用した自学用ツールの使用や実践は、法整備が整っていないため成果物とするには慎重を期す必要が多々あった。
	理数探究	○数学的な見方・考え方、理科の見方・考え方を組み合わせるなどして、探究活動への理解を深め、その活動の方法と意義について学ぶ。 ○様々な事象や課題に知的好奇心や主体性を持って向き合い、課題解決に向けて意欲的に取り組む態度を養う。	A	B	A	A	B			B		・各科目担当者間で、教材等を共有し、生徒主体の活動につなげることができた。また、ICT機器を活用し、データの収集、分析等を実践することができた。 ・グループ活動を通し、主体的に各自の課題研究について探究活動を実施することができた。さらに、2年次生、宇大教員、学生、各担当教員からの助言を活かし、より意欲的に活動を実施することができた。

(2) 生徒・保護者アンケート結果分析

- 学習・進路に関する項目は概ね8～9割の肯定的評価を得た。今後は全項目で肯定的評価が9割以上となることを目指し指導の充実を努めたい。
- 安全・健康・生徒指導に関する項目では、防災・防犯及び交通安全指導、美化活動で生徒の肯定的評価が昨年度同様9割以上となった。また、いじめに関する項目では生徒の肯定的評価が昨年度同様8割以上となり、今後も引き続ききめ細かい指導に努めたい。
- 特別活動に関する項目では、例年に引き続き部活動や生徒会活動の充実が全項目で最高評価である。今後も生徒の主体性を育む指導・支援に努めたい。
- 電子黒板やタブレット端末の活用については設備環境が整備され活用場面も増えている。行事のアンケートや意見の徴収などにFormsの活用が推進されており生徒の肯定的評価が87%と高い水準を維持した。今後も活用の幅を広げられるよう研究し、教育活動の充実を努めたい。
- 生徒・保護者への相談体制に対する評価については例年通り高い評価を得ている。引き続き信頼関係の構築に努めたい。
- 情操と品位の醸成についても、9割の肯定的評価を得た。
- 例年同様、本校に対する総合的な満足度は生徒・保護者ともに、高いといえる。これについて今後も維持と向上を続けるよう努めていきたい。

(3) 重点目標に対する総合評価(努力点ごと)

- 重点目標1**
- ①概ね達成できた。特に教科においてはA評価が目立ち授業改善やICT活用を教員同士で共有するなどの工夫があり授業や指導の実践に向けて先生方が努力されていることが伺える。主体的対話的な学びについてもより一層工夫改善に努めていきたい。
  - ②概ね達成できた。教育目標である情豊かな生徒育成にむけ、今後あらゆる教育活動において知・徳・体の調和のとれた生徒を育成していきたい。
  - ③概ね達成できた。探究的な学習活動の推進は理数探究基礎や2年次の総合的な探究の時間でも評価が高く、全職員で効果的な指導ができるよう工夫がなされた。今後も、生徒が主体的に行動的に向き合う力を育成していきたい。
- 重点目標2**
- ①概ね達成できた。特に家庭科の体験的な活動や国語科の教材精選の工夫により自己の生き方や考え方を考えさせる機会をより増やし、社会的職業的自立に向けた必要な能力や態度の育成が実施できた。
  - ②概ね達成できた。今後とも生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導を努めたい。また、高い志をもち最後まで諦めずに進路実現を目指す集団を今後も育てていきたい。
- 重点目標3**
- ①安心安全は教育活動の土台であるため、その確保と安全・健康意識の高揚に一層努力をしたい。またいじめに関する事、その他の教育相談においては引き続き、きめ細かい指導の徹底と、相談体制の周知に努めたい。
  - ②多くの教科でICT活用が進んでいる。また採点時の百問繚乱による時間削減が業務の負担軽減につながった。
  - ③学校Webの更新により本校の情報発信が行えている。今後とも魅力ある学校を外部に発信していきたい。

2 学校関係者評価及び評価結果に基づく今後の改善方策等

<p><b>主な御意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重点目標を概ね達成できている。保護者の期待度が高い中で少数の意見に耳を傾けていくことを引き続きお願いしたい。</li> <li>○学習指導において教員が課題を生徒に出すということが学力を上げるということに直結せずオンラインツールなどを活用し高校生の感覚で課題の出し方などの工夫をしてもらいたい。</li> <li>○多様な生徒に対して、今後ともきめ細かい指導を先生方が自信をもって行ってほしい。</li> </ul>	<p><b>今後の改善方策等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動の在り方や教育相談等、チームとして指導する体制づくりが教員一人ひとりの負担感を軽減させる。組織的に学校全体で取り組んでもらいたい。</li> <li>○地域連携事業はキャリア教育につながるものとなり、全生徒が取り組むものとして工夫してもらいたい。</li> <li>○教員の多忙化への不安は教員志望の若い世代を作るためにも必須の課題である。全先生方のスケジュールの共有などアプリを利用し先生方の仕事を見える化しながら仕事に分散を図ってもらいたい。</li> </ul>
--	--